

平成24年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 社会(歴史的分野) (1/1枚目)

調査の観点	発行者名	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院	日本文教出版	自由社	育鵬社
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮		発達段階に配慮している。小学校で学んだことが提示され、小学校との連続性に配慮している。イラスト等にも工夫がある。本市の学力に鑑み、適切である。	小学校で学んだ人物を取り上げ、小学校との連続性に配慮している。歴史上の人物や絵を多く掲載し、興味・関心を引き出す配慮がある。本市の学力に鑑み、適切である。	人物カルタやポスター作りを通して小学校との連続性に配慮している。導入部分で、歴史への興味・関心を引き出す工夫がある。「深める歴史～」の内容が、本市では多少難解と思われる。	人物カード作りとゲームを通して小学校との連続性に配慮している。タイムトラベルをしながら歴史を学習するという設定で、興味・関心を引き出す工夫がある。本市の学力に鑑み、適切である。	導入部分で歴史のとらえ方や教科書の使い方を示し、小学校との連続性に配慮している。写真や図版が豊富で、興味・関心を引く工夫がされている。また、各編・章の導入資料が見やすい。本市の学力に鑑み、適切である。	序章で、歴史のとらえ方を示し、発達段階に配慮した内容である。図版や資料が多く、興味・関心を引く内容にしている。本市の学力に鑑み、適切である。	「歴史人物Q&Aカード」で、小学校との連続性に配慮している。イラストに工夫があるが、読み物コラムで取り上げている内容はやや細かすぎる。本市の学力に鑑み、適切である。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮		内容は、組織的に配列されている。253ページで、発達段階に配慮している。基本事項を十分に押さえ、用語解説の頁(254～)も適切である。また、各章末の「この時代の特色をとらえよう」、「この時代の学習を振り返って、みんなで考えよう」等の補充教材も適切である。各章に「わたしたち歴史探検隊」、「深めよう」、「歴史スキルアップ」を設定し、発展教材にも配慮がある。	内容は、組織的に配列されている。260ページで、発達段階に配慮している。各章末に「学習のまとめと表現」を設定し、基本事項の押さえと発展的設問に工夫がある。ただ、本文の内容と地図等の資料を結び付けるマークが多すぎて見にくい。見開き2ページの「トライ」や各章の「読み解こう」では、基本事項とともに発展的設問も設定されている。	内容は、組織的に配列されている。275ページで、発達段階に配慮している。用語解説を随所に掲載し、生徒が学びやすい工夫がある。随所に「まとめてみよう」というテーマ学習を設定し、発展的な設問を工夫している。	内容は組織的に配列されているが、資料等は一般的なものが多い。262ページで、発達段階に配慮している。「学習のまとめ」の見開き2ページにある「チェック・トライ」では、基本事項の押さえと発展的な設問が設定されている。「歴史に挑戦」を6テーマ設定し、資料に基づいて考察させているが、発展教材として工夫が見られる。	内容は組織的に配列されている。また、最初に教科書の使い方を示しているのは、現代的で評価できる。273ページで、発達段階に配慮している。「歴史を掘り下げる」「でかけよう！地域調べ」「とらえよう！時代の転換」等を設定し、基本事項の押さえと補充教材が充実している。写真・図版等が資料集並みに充実し、発展教材にも配慮がある。	内容は組織的に配列されている。269ページで、発達段階に配慮している。章末に問答形式の解説や用語解説等で、基本事項の押さえに配慮している。また、随所に「ここがポイント！」という説明書きがあり、内容をつかみやすい。コラムで取り上げる内容がやや多すぎる。	内容は組織的に配列されている。262ページで、発達段階に配慮している。基本事項は十分に押さえられているが、多面的な視点に欠ける表現が見られる。文化面の記述や資料が多いが、生徒にとって難関な部分がある。発展教材が多く写真や図表が多い。
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ		文体は敬体で、読みやすい。写真が大きく、鮮明である。また、地図も大きくて見やすい。	文体は敬体で、読みやすい。資料や写真は鮮明で見やすい。ただ、小さくて見づらいものもある。	文体は常体で、表現は一般的である。文字はやや大きくて読みやすいが、写真が小さいものがある。	文体は敬体で、読みやすい。印刷、写真は見やすい。ただ、写真の青みが強い。(36,40,56など)	文体は敬体で、読みやすい。左ページの年表は、煩雑な感じがする。印刷、写真は見やすい。写真の配置もよい。	常体で、読みやすい。写真に不鮮明なものがある。本文と写真等のレイアウトに工夫がほしい。	敬体で読みやすい。印刷や写真の中に鮮明でないものや小さいものがある。
4 使用上の便宜 (1)全体が構成見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮		章の最初に年表があり、分かりやすいが、章を概観させる頁は、分かりやすいとは言えない。また、各ページ下に章・節が記され分かりやすい。各章に「深めよう」を設定し、課題発見と解決の取り組みを工夫している。印刷は鮮明で、装丁もすっきりしている。「歴史探検隊」で、地域調べ学習のあり方を分かりやすく提案している。	章末の「学習のまとめと表現」や章初めに年表を配し、全体を見渡せる構成である。「資料/人物/世界/地域から歴史を探そう」を設定し、課題発見学習に配慮している。印刷は鮮明である。「郷土の歴史を探そう」、「地域から歴史を探そう」を設定し、地域調べ学習に配慮している。	章末のまとめは、社会・文化・世界の動きに分類しているが、見にくい。課題発見に役立つ資料があり、深めようとする視点も感じられるが、難解な部分もある。印刷は鮮明である。「身近な地域を調べよう」は、中世と幕末に1回ずつ設定されただけである。	目次で、全体の配置が分かる工夫がある。また、教科書の使い方を分かりやすく示している。「歴史に挑戦」では、課題発見学習に配慮している。「タイムトラベル」では、各時代の特色の把握や比較に配慮している。印刷は鮮明で、装丁も良い。「地域調査・まとめ発表マニュアル」があり、地域学習に配慮している。	まとめを使って各章の振り返りができ、全体を見渡せる構成である。世界史との関連でとらえるページ構成は優れており、課題発見学習を効果的に進められる。印刷は鮮明で、装丁も良い。「でかけよう！地域調べ」では、調べ方やまとめ方のヒントが提示され、地域調べ学習に配慮している。	全体の構成が見渡せるように配慮されている。課題発見、解決に向けた学習を効果的に進めるために配慮している。ただ、コラムが多く(28ヶ所)、内容が細かすぎる部分もある。印刷、装丁は、配慮されている。序章に「地域の歴史を調べる」という節を設け、配慮している。	章の最初に「歴史絵巻」があり、分かりやすい。読み物教材が多く、課題解決的な視点は少ない。また、各章のまとめ問題1は、年表の空欄に人物や語句を選ぶものだが、提示された選択肢が順番どおりで設問として容易すぎる。印刷は鮮明で、装丁も良い。地域性への配慮は特にない。
5 総合所見(重点調査項目) 歴史的視点を培う姿勢、特に多角的・多面的な視点の導入 我が国の伝統文化に関する取り扱い 世界の3大宗教に関する取り扱い 大観する授業への配慮		章末の「この時代の特色をとらえよう」で「人物カード」、「歴史新聞」等の方法を紹介し、多面的思考への配慮がある。また、戦争や対立を扱う箇所では、立場の違いによる記述を取り入れ、多角的・多面的思考への配慮がある。世界遺産や国宝をマークで紹介し、さらに「歴史探検隊」で伝統文化に関心をもち、尊重する姿勢を培おうとしている。3大宗教を2ページで記している。章末の「この時代をとらえよう」で多くの手法の大観授業を提案している。	テーマ学習が「郷土・資料・人物・地域・世界」等の視点で、多面的思考がなされるように設定している。教科書の最初で「日本の美」を4点紹介し、本文中にも「世界遺産」、「国宝」、「重文」等と分かりやすく記されている。3大宗教の起こりと広がり、異なる単元において10行程度ずつ記されている。各章末の「学習のまとめと表現」や折込年表等により、歴史の歩みを大観させられる。	「地図でみる世界史」を3ヶ所設定し、地理的視点で眺める工夫がある。また、学習活動の例をいくつか挙げ、多面的な視点を養う工夫がある。文化面を扱う資料が物足りず、他に資料集が必要である。地域の伝統文化の理解を深める学習では、フィールドワークの手法を紹介している。(p.138)3大宗教は、時代順に出てくる旧来の方式と同じだが、まとめ方は分かりやすい。章末では、資料をもとに大きな時代の流れをまとめる設定だが、生徒には分かりにくい。	「タイムトラベル」で各時代を比較でき、気づきもある。また、戦争や対立を扱う場面では、立場の違いを示す資料を掲載し、多角的・多面的思考を促している。巻末の「地域調査・まとめ発表マニュアル」では、地域の伝統文化を尊重する姿勢を培っている。3大宗教の起こりと広がりを2ページで、ていねいに記している。比較の視点でまとめられ、地図もあって分かりやすい。「学習のまとめ」の写真やグラフ等から説明を提案する「資料活用型の大観授業」に特色がある。	「時代の転換」や世界史的な視点により、多角的・多面的視点を培う工夫がある。また、地図や年表をバランスよく配置し、日本史と世界史とを結びつけて学習する工夫もされている。「歴史を掘り下げる」で伝統文化を適切に扱い、文化を扱う折込頁はていねいに構成されている。3大宗教は、見開き2ページで、内容と分量は適切である。章のまとめや巻末の9ページの年表は分かりやすく、大観授業に配慮している。世界史を大観させることは新鮮である。	事項を多面的・多角的にとらえるという視点が弱い。戦争や対立を扱う場面では、表現に特徴が見られる。(237,238,239,240等)伝統文化の記述は適量、一般的な資料や表現である。3大宗教は、見開き2ページで、内容と分量は適切である。章末のまとめを活用して、大観させる授業を試みている。	事項を多角的・多面的にとらえるという視点が弱い。伝統文化に関する記述は多い。3大宗教は、見開き2ページの扱いで、分量は適切である。大観させる授業の試みがある。